

概 要

1 福井県総人口 816,198 人（平成 19 年 10 月 1 日現在）

本県の総人口は、平成 19 年 10 月 1 日現在 816,198 人で、平成 18 年 10 月 1 日から平成 19 年 9 月 30 日までの 1 年間に 2,777 人減少した。

全国総人口は 127,780 千人（総務省「人口推計」19 年 10 月 1 日現在概算値）で、本県人口の占める割合は 0.64% である。また、本県の面積は 4,189.28 k m²（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」19 年 10 月 1 日現在）で、人口密度は 1 k m² 当たり 194.8 人である。

人口は昭和 46 年以降増加傾向が続いていたが、平成 12 年以降は減少に転じ、平成 19 年は前年と比べ、△0.34% と 8 年連続の減少となっている。

（1）自然動態（出生・死亡）

出生数は、第 2 次ベビーブーム期の昭和 48 年以降は減少傾向が続いている。平成 19 年の出生数は 7,265 人で、前年と比べ 1 人の減少となり、平成 7 年以降 13 年連続の減少となっている。一方、死亡者数は増加傾向が続いていたが、平成 19 年は 7,765 人と、前年に比べ 97 人減少した。この結果、自然増減数は 500 人の減少となり、平成 16 年以降 4 年連続の減少となっている。

（2）社会動態（転入・転出）

社会動態は、昭和 25 年以降ほぼ一貫して減少の傾向にあり、平成 8 年以降は平成 12 年を除き、社会減少が続いている。平成 19 年の県外転入者は 13,938 人、県外転出者は 16,215 人となっており、この結果 2,277 人の社会減少となった。内訳を見ると、県外転入で最も多いのは石川県の 1,224 人、ついで大阪府の 1,086 人、兵庫県の 870 人となっている。また、県外転出で最も多いのは石川県の 1,479 人、東京都の 1,356 人、ついで大阪府の 1,289 人となっている。

図 1 総人口の推移

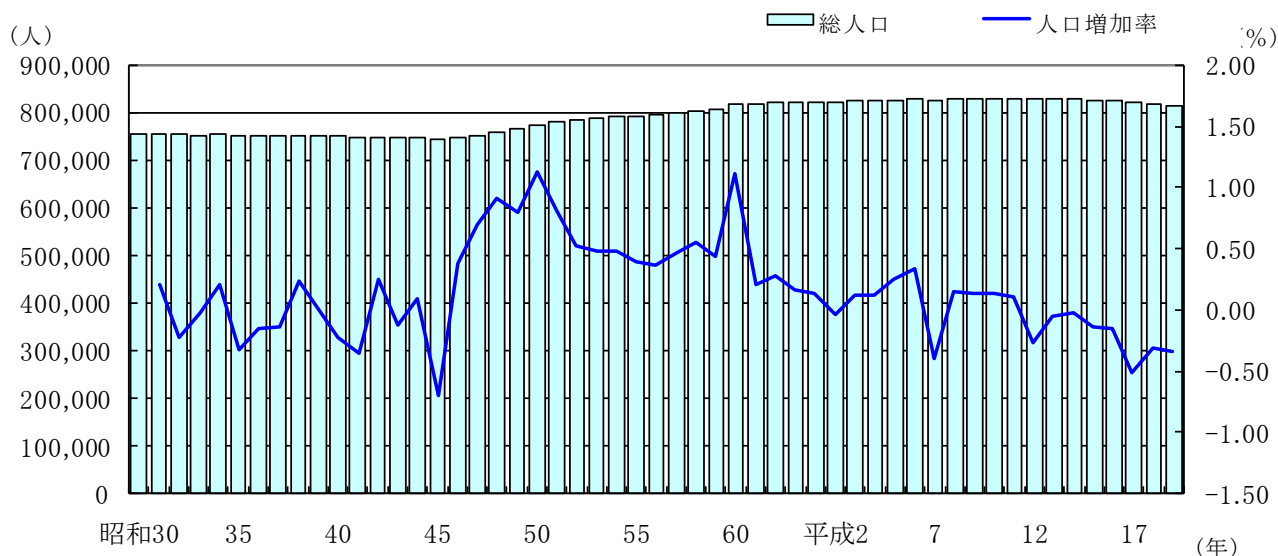


図2 自然増加数・社会増加数

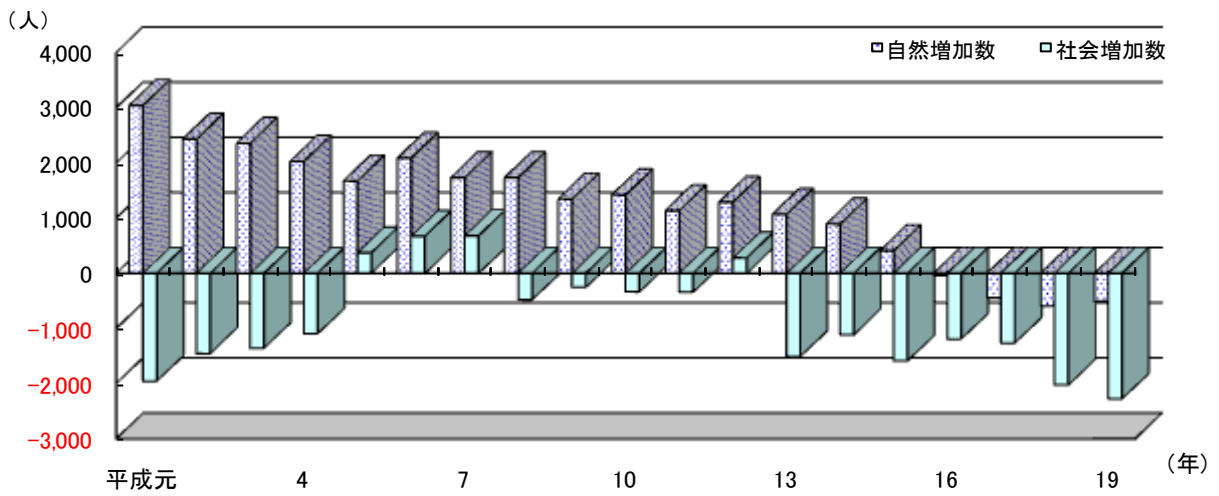


表1 人口の推移

(単位：人、%)

区分	総人口	人口増加数	人口増加率	自然増加数	社会増加数	外国人数
平成元年	823,943	1,087	0.13	3,044	△ 1,957	…
2※	823,585	△ 358	△ 0.04	2,430	△ 1,453	5,257
3	824,581	996	0.12	2,355	△ 1,359	5,888
4	825,515	934	0.11	2,028	△ 1,094	6,588
5	827,560	2,045	0.25	1,673	372	7,379
6	830,317	2,757	0.33	2,086	671	7,848
7※	826,996	△ 3,321	△ 0.40	1,732	681	7,593
8	828,249	1,253	0.15	1,733	△ 480	7,886
9	829,344	1,095	0.13	1,346	△ 251	8,548
10	830,429	1,085	0.13	1,419	△ 334	9,091
11	831,222	793	0.10	1,135	△ 342	9,681
12※	828,944	△ 2,278	△ 0.27	1,287	276	9,861
13	828,502	△ 442	△ 0.05	1,070	△ 1,512	9,957
14	828,285	△ 217	△ 0.03	892	△ 1,109	10,389
15	827,110	△ 1,175	△ 0.14	409	△ 1,584	10,740
16	825,880	△ 1,230	△ 0.15	△ 39	△ 1,191	11,252
17※	821,592	△ 4,288	△ 0.52	△ 444	△ 1,267	10,803
18	818,975	△ 2,617	△ 0.32	△ 596	△ 2,021	10,733
19	816,198	△ 2,777	△ 0.34	△ 500	△ 2,277	10,665

【※は国勢調査年】

(注) ※年の総人口については、国勢調査人口におきかえている。

図3 人口増加率・自然増加率・社会増加率

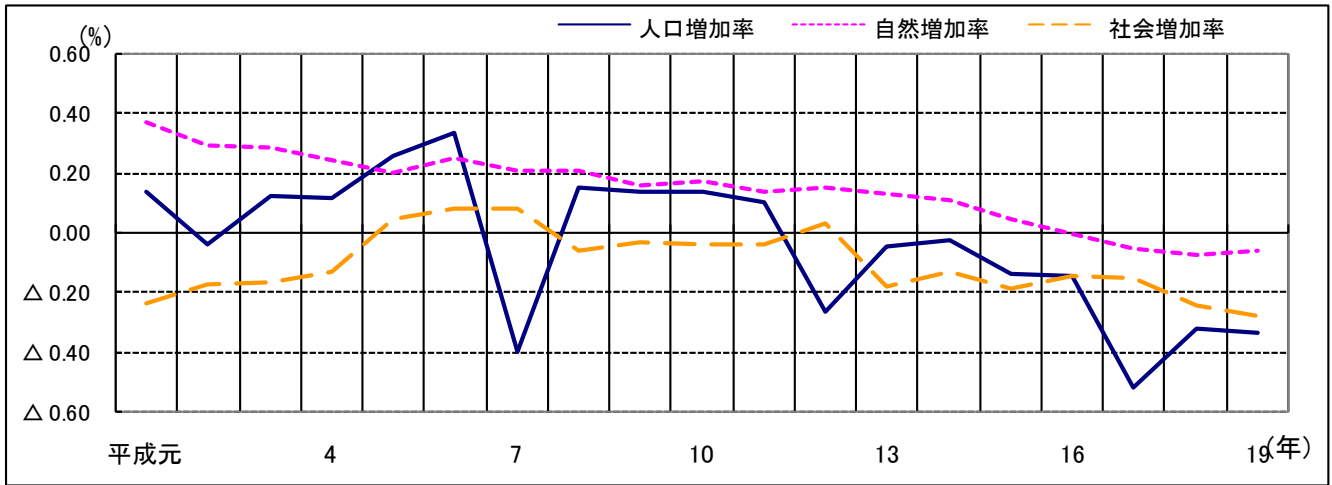
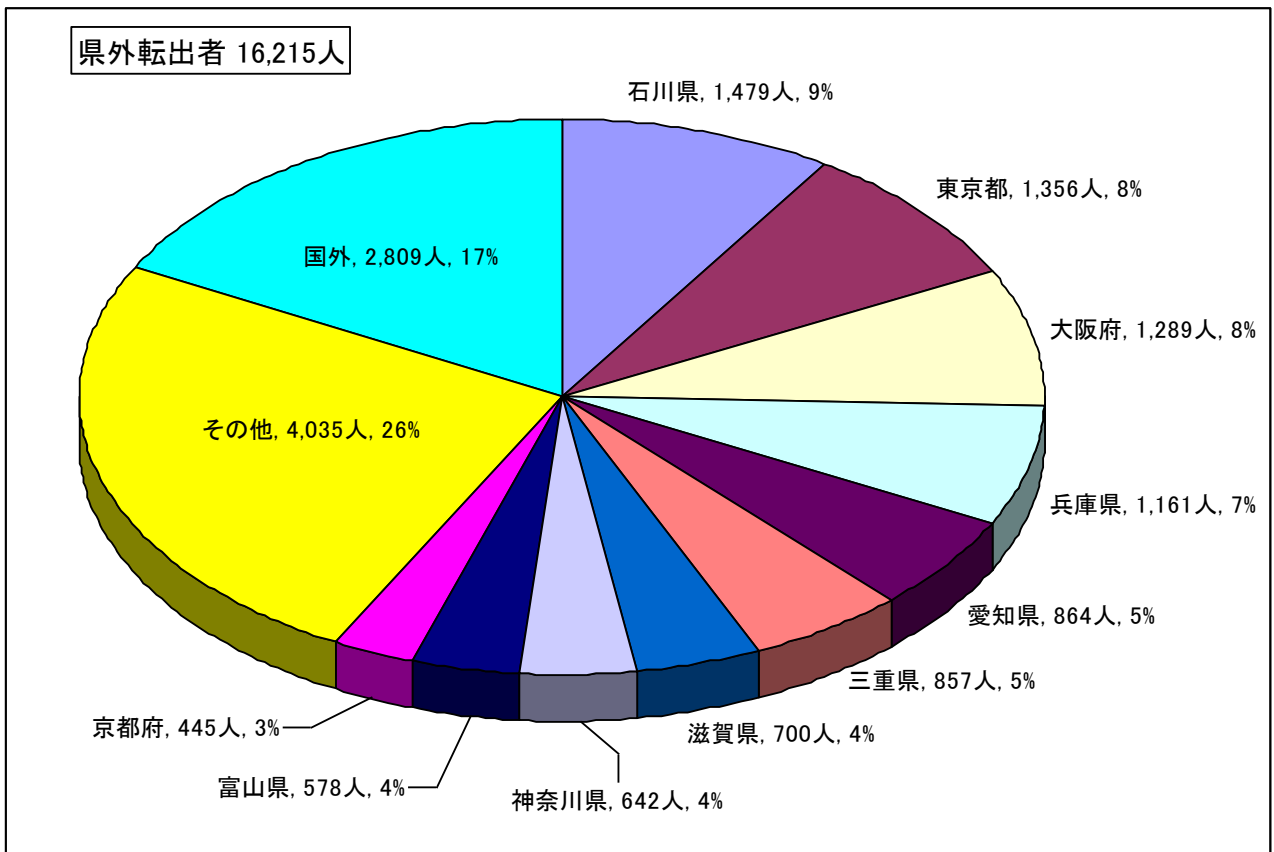
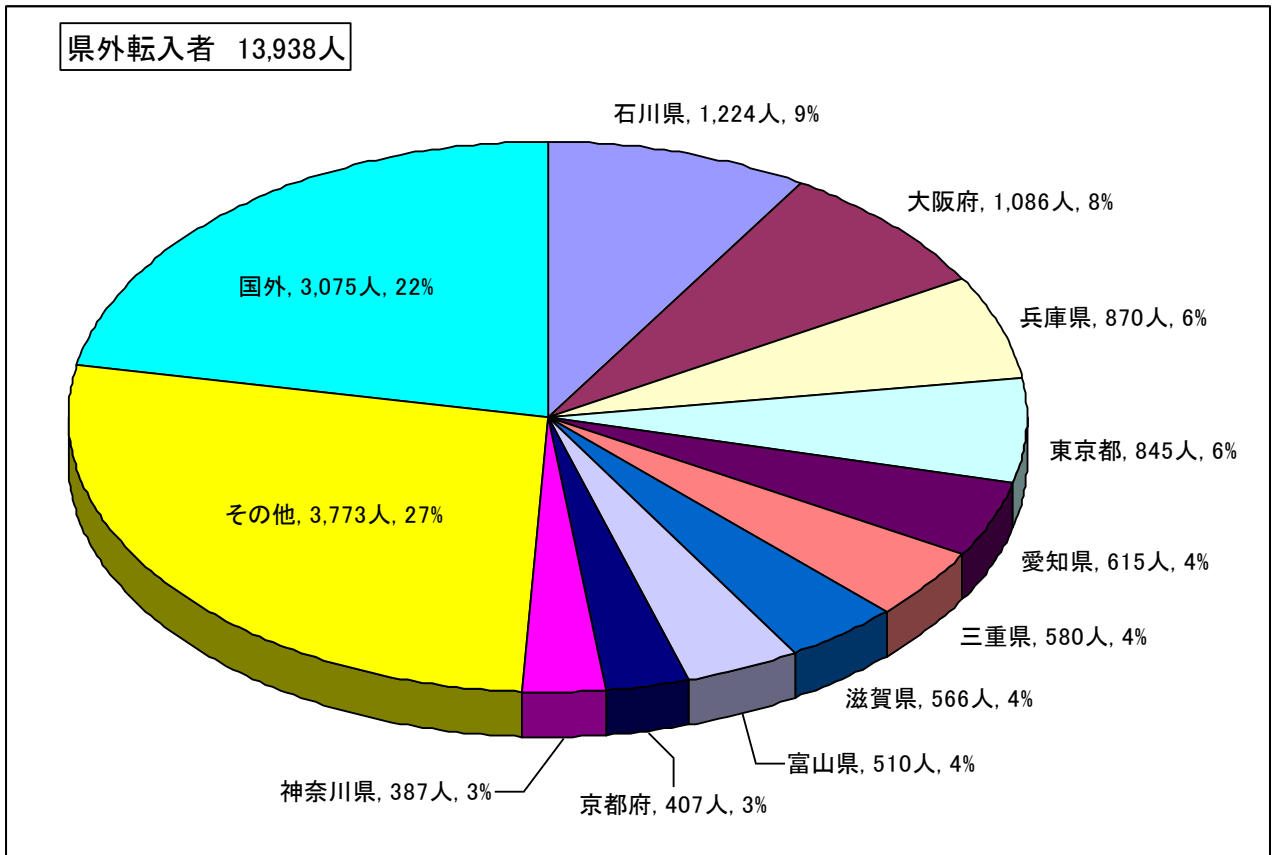


表2 平成18年10月～平成19年9月の月別人口・移動者数

(単位：人)

月	人口	人口増減数	自然増減	出生	死亡	社会増減	県外転入	県外転出
平成18年10月	818,975	160	98	685	587	62	1,154	1,092
11月	819,135	△ 56	△ 39	617	656	△ 17	942	959
12月	819,079	△ 142	△ 131	593	724	△ 11	860	871
平成19年 1月	818,937	△ 461	△ 207	585	792	△ 254	714	968
2月	818,476	△ 366	△ 157	523	680	△ 209	842	1,051
3月	818,110	△ 1,917	△ 77	594	671	△ 1,840	2,084	3,924
4月	816,193	501	△ 50	579	629	551	2,234	1,683
5月	816,694	△ 316	△ 59	648	707	△ 257	1,007	1,264
6月	816,378	△ 5	△ 4	561	565	△ 1	954	955
7月	816,373	△ 61	68	662	594	△ 129	1,125	1,254
8月	816,312	△ 101	16	627	611	△ 117	1,100	1,217
9月	816,211	△ 13	42	591	549	△ 55	922	977
10月	816,198	-	-	-	-	-	-	-
総 数		△ 2,777	△ 500	7,265	7,765	△ 2,277	13,938	16,215

図4 県外転入前・転出先住所地内訳



2 年齢・男女別人口

(1) 年齢（5歳階級）別人口

ひょうたん型に近い人口ピラミッド

福井県の年齢5歳階級別人口は、55～59歳が68,425人で最も多く、ついで30～34歳の54,628人、35～39歳の53,511人の順となっている。

人口ピラミッドをみると、昭和22年～24年(現58～60歳)の第1次ベビーブーム期までは若い年齢ほど人口が多い「富士山型」をしていたが、出生数の減少に伴い「つぼ型」に変化した。その後、昭和46～49年(現33～36歳)の第2次ベビーブーム期を経て出生数が再び減少している。

人口を男女別にみると、男性が394,832人、女性が421,366人で、女性が男性より26,534人多く、人口性比(女性100人に対する男性の数)は93.7となっている。

図5 男女別年齢5歳階級別人口

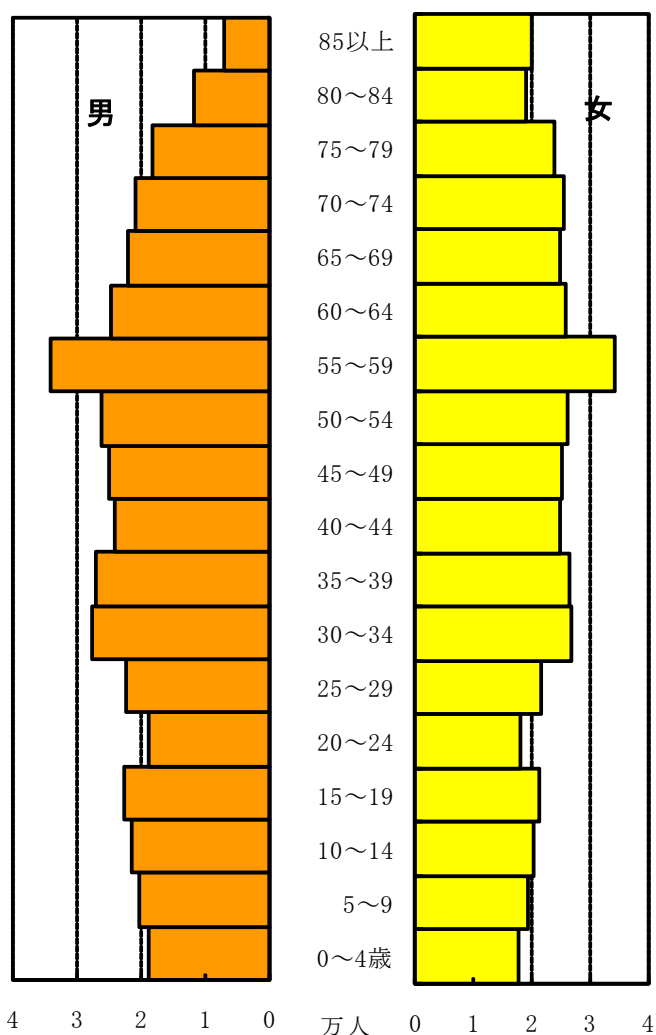


表3 男女別年齢5歳階級別人口

単位：人

区分	男	女	性比
0～4歳	18,781	17,638	106.5
5～9	20,335	19,455	104.5
10～14	21,566	20,256	106.5
15～19	22,558	21,345	105.7
20～24	18,833	18,155	103.7
25～29	22,393	21,691	103.2
30～34	27,783	26,845	103.5
35～39	26,961	26,550	101.5
40～44	24,084	24,777	97.2
45～49	25,125	25,244	99.5
50～54	26,165	26,055	100.4
55～59	34,240	34,185	100.2
60～64	24,823	25,701	96.6
65～69	22,180	24,719	89.7
70～74	20,970	25,513	82.2
75～79	18,197	23,809	76.4
80～84	11,692	19,141	61.1
85以上	7,000	19,945	35.1
計	394,832	421,366	93.7

(注) 計は、年齢不詳 男1,146人、女342人を含む。

(2) 年齢（3区分）別人口

拡大を続ける老年人口の割合

総人口を年齢3区分別にみると、年少人口(0～14歳)および生産年齢人口(15～64歳)の割合は減少し、老年人口(65歳以上)の割合が増加を続けている。平成19年の年少人口は118,031人(14.5%)と前年に比べて0.1ポイント減少する一方、老年人口は193,166人(23.7%)で、前年と比べて0.6ポイント増加した。生産年齢人口は503,513人(61.7%)で、前年と比べて0.5ポイント減少した。

また、人口の高齢化の程度を示す指数である老年化指数(老年人口の年少人口に対する比率)は163.7となっており、平成7年に老年人口が初めて年少人口を上回って以降、毎年5ポイント前後の上昇が続いている。

図6 年齢（3区分）別人口の推移

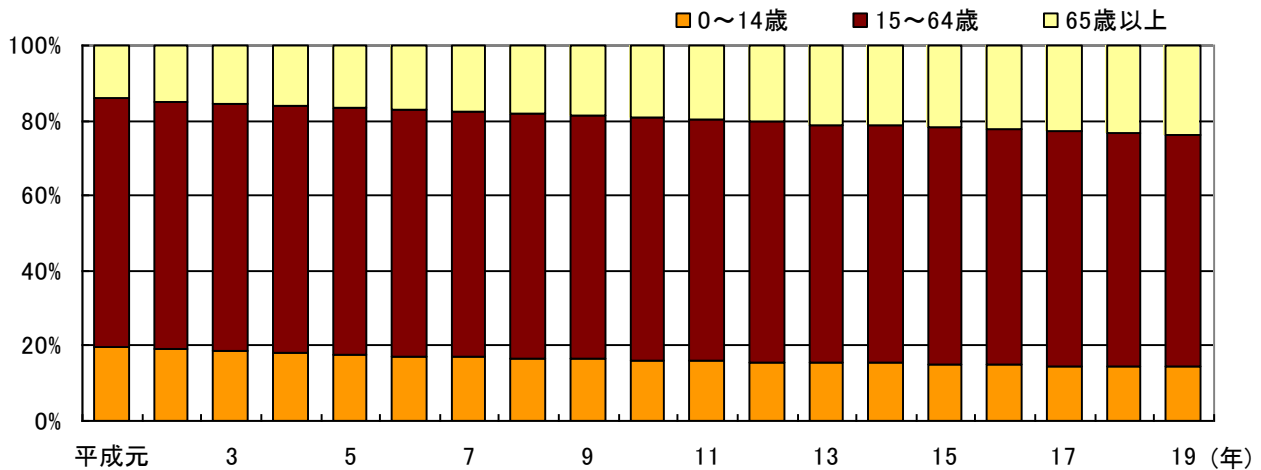


表4 年齢（3区分）別人口の推移

(単位：人、%)

区分	年齢構成別人口			構成割合			老年化指数
	0～14歳	15～64歳	65歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上	
平成元年	160,475	546,131	117,337	19.5	66.3	14.2	73.1
2	155,998	545,297	121,940	18.9	66.2	14.8	78.2
3	152,112	545,414	127,055	18.4	66.1	15.4	83.5
4	148,626	545,024	131,865	18.0	66.0	16.0	88.7
5	145,617	545,144	136,799	17.6	65.9	16.5	93.9
6	143,479	544,816	142,022	17.3	65.6	17.1	99.0
7	140,593	539,592	146,728	17.0	65.2	17.7	104.4
8	138,624	537,615	151,927	16.7	64.9	18.3	109.6
9	136,966	535,779	156,516	16.5	64.6	18.9	114.3
10	134,951	534,162	161,233	16.3	64.3	19.4	119.5
11	132,658	533,185	165,296	16.0	64.1	19.9	124.6
12	130,143	529,017	169,489	15.7	63.8	20.4	130.2
13	128,279	525,455	174,473	15.5	63.4	21.1	136.0
14	126,329	523,198	178,463	15.3	63.2	21.5	141.3
15	124,528	520,980	181,307	15.1	63.0	21.9	145.6
16	122,588	520,112	182,885	14.8	63.0	22.1	149.2
17	120,745	513,858	185,501	14.7	62.5	22.6	153.6
18	119,297	509,209	188,981	14.6	62.2	23.1	158.4
19	118,031	503,513	193,166	14.5	61.7	23.7	163.7

(注) 平成7年以降は、年齢不詳を年齢構成別人口に含めていない。

3 世帯数

総世帯数は 273,552 世帯

福井県の総世帯数は 273,552 世帯で、前年と比べ 1,742 世帯 (0.64%) 増加した。また、1 世帯当たり人員は 2.98 人で、前年と比べ 0.03 人の減少となり、核家族や単身世帯の増加に伴い毎年減少を続けている。

図 7 世帯数の推移

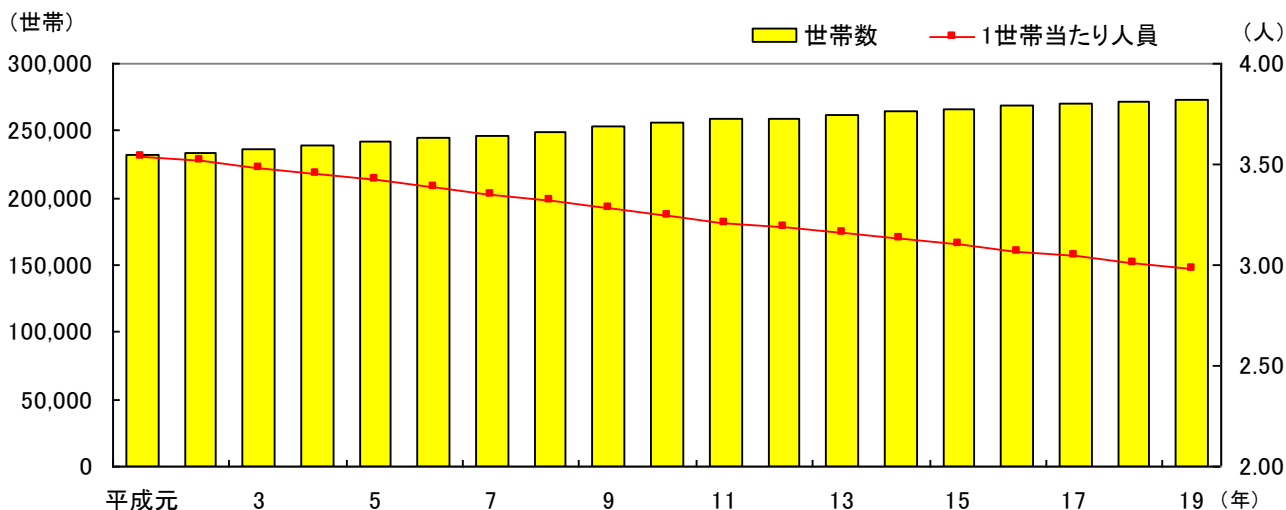


表 5 世帯数の推移

(単位：人、%)

区分	世帯数	増加数	増加率	1世帯当たり人員
平成元年	232,532	1,867	0.81	3.54
2※	234,192	1,660	0.71	3.52
3	236,662	2,470	1.05	3.48
4	238,960	2,298	0.97	3.45
5	241,868	2,908	1.22	3.42
6	244,821	2,953	1.22	3.39
7※	246,911	2,090	0.85	3.35
8	249,750	2,839	1.15	3.32
9	252,714	2,964	1.19	3.28
10	255,684	2,970	1.18	3.25
11	259,040	3,356	1.31	3.21
12※	259,612	572	0.22	3.19
13	261,845	2,233	0.86	3.16
14	264,393	2,548	0.97	3.13
15	266,603	2,210	0.84	3.10
16	268,671	2,068	0.78	3.07
17※	269,577	906	0.34	3.05
18	271,810	2,233	0.83	3.01
19	273,552	1,742	0.64	2.98

【※は国勢調査年】

4 市町人口

(1) 人口増減……鯖江市が唯一増加

人口が増加したのは鯖江市のみで、他の16市町は昨年に比べ減少した。

人口増加率は、鯖江市が0.36%で、自然増加かつ社会増加となっている。一方、もっとも減少率が高かったのは池田町、南越前町で△1.77%、ついで、高浜町の△1.53%となっている。

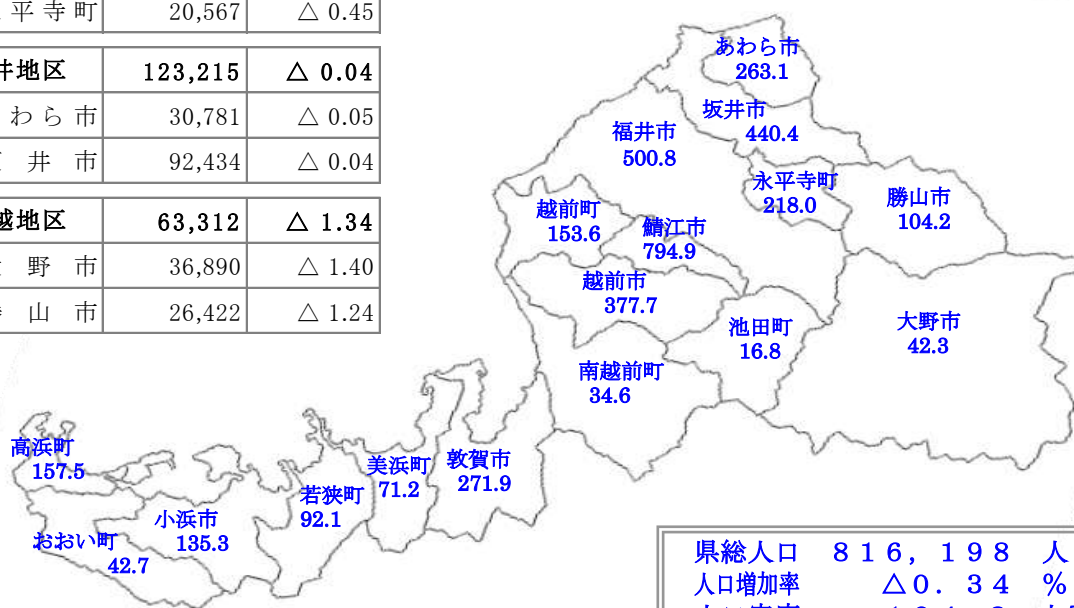
広域圏単位でみると、すべての広域圏で減少しており、最も減少率が高いのは奥越の△1.34%、次いで嶺南の△0.54%となっている。

(2) 人口密度……人口密度が最も高い鯖江市

面積1km²当たりの人口密度は、鯖江市が794.9人で最も高く、ついで福井市の500.8人、坂井市の440.4人、越前市の377.7人の順となっている。最も低いのは池田町の16.8人で、ついで南越前町の34.6人、大野市の42.3人となっている。

地域	人口(人)	増加率(%)
福井地区	289,074	△ 0.19
福井市	268,507	△ 0.17
永平寺町	20,567	△ 0.45
坂井地区	123,215	△ 0.04
あわら市	30,781	△ 0.05
坂井市	92,434	△ 0.04
奥越地区	63,312	△ 1.34
大野市	36,890	△ 1.40
勝山市	26,422	△ 1.24

【市町別人口・増加率・人口密度】



県総人口	816,198人
人口増加率	△0.34%
人口密度	194.8人/km ²

地域	人口(人)	増加率(%)
嶺南地区	147,397	△ 0.54
敦賀市	68,183	△ 0.11
小浜市	31,502	△ 0.78
美浜町	10,838	△ 0.37
高浜町	11,358	△ 1.53
おおい町	9,067	△ 0.45
若狭町	16,449	△ 1.31

地域	人口(人)	増加率(%)
丹南地区	193,200	△ 0.27
鯖江市	67,372	0.36
越前市	87,163	△ 0.29
池田町	3,272	△ 1.77
南越前町	11,909	△ 1.77
越前町	23,484	△ 1.06

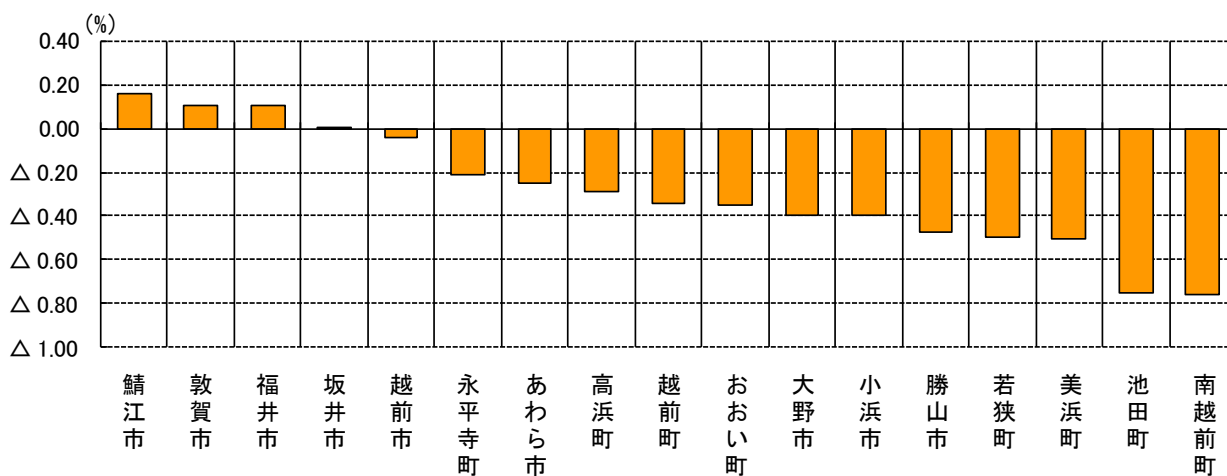
(3) 自然動態……………自然増加率が最も高い鯖江市

自然増加率がプラスになったのは鯖江市、敦賀市、福井市、坂井市の4市で、鯖江市が0.16%で最も高く、ついで敦賀市の0.11%、福井市の0.10%となっている。最も低いのは南越前町の Δ 0.76%である。

出生率は、鯖江市が1.00%で最も高く、最も低いのは池田町の0.48%である。

死亡率は、南越前町が1.44%で最も高く、最も低いのは、鯖江市の0.83%である。

図8 市町別自然増加率



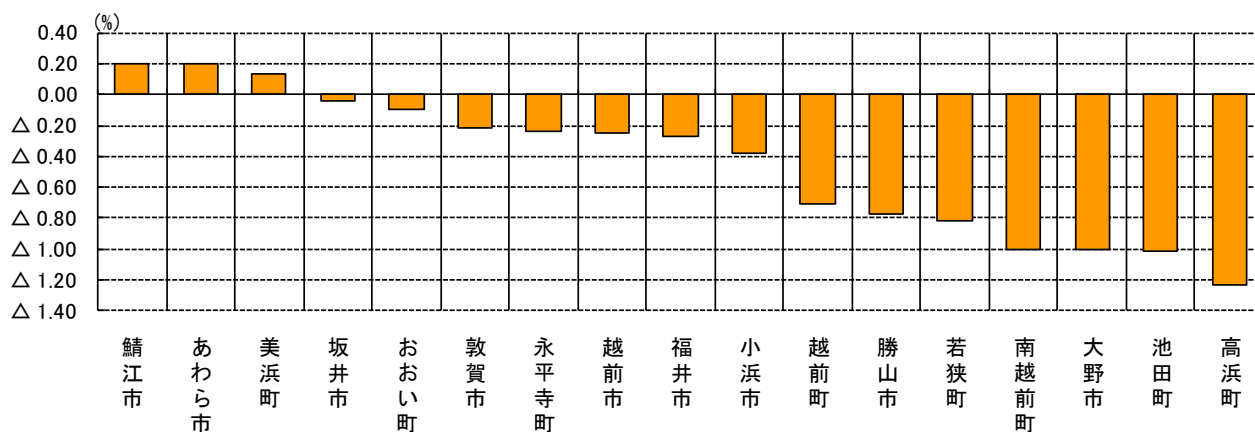
(4) 社会動態……………社会増加率が最も高い鯖江市

社会増加率がプラス（転入超過）になったのは鯖江市、あわら市、美浜町で、鯖江市・あわら市が0.20%、美浜町は0.14%となっている。最も低いのは高浜町の Δ 1.24%である。

転入率は、美浜町が4.04%で最も高くなっている。最も低いのは池田町の1.77%である。

転出率は、高浜町が4.67%で最も高くなっている。最も低いのはあわら市の2.72%である。

図9 市町別社会増加率



(5) 年齢（3区分）別人口

年少人口（0～14歳）の割合が最も高いのは坂井市の15.9%で、ついで鯖江市の15.8%、高浜町の15.4%の順となっている。最も低いのは、池田町の10.1%で、ついで美浜町・勝山市の12.4%となっている。

生産年齢人口（15～64歳）の割合が最も高いのは、敦賀市の63.1%で、ついで福井市の62.9%、坂井市・鯖江市の62.7%の順となっている。最も低いのは、池田町の50.1%で、ついで若狭町の56.0%、南越前町の56.4%となっている。

老年人口（65歳以上）の割合が最も高いのは、池田町の39.8%で、ついで南越前町の29.8%、若狭町の29.5%の順となっている。最も低いのは、坂井市の21.2%で、ついで鯖江市の21.5%、敦賀市の21.9%となっている。老年人口は県内全市町で昨年に比べると増加している。

老年化指数（年少人口に対する老年人口の比率）が最も高いのは、池田町の393.1で、ついで勝山市の235.2、美浜町の230.8、大野市の222.4の順となっている。最も低いのは、坂井市の133.4で、ついで鯖江市の136.0、敦賀市の147.4となっている。

図10 市町別年齢別（3区分）人口

